

そして

うたおう

NO. 2 1 1 2023年5月1日発行

<練習予定>	5月.....	1日	8日	29日
	6月.....	4日(日)	第70回湘南合唱祭(伊勢原市民文化会館)	
	6月.....	12日	19日	26日(櫻井先生)
	7月.....	3日	10日	24日
	8月.....	7日	21日	28日(櫻井先生)
	9月.....	4日	11日	25日(櫻井先生)
<練習曲>	「花に寄せて」 星野富弘/作詞 新実徳英/作曲			
	「Veni, veni Emmanuel」			
	「A Magyarokhoz」			
	「Enek Szent Istvan Kirakyhoz」 ゴルタン・コダーイ作曲			
<練習時間>	月曜日6時30分～9時00分 (練習場所) 崇善公民館			
	練習欠席の際の連絡 男性: 鈴木 090・8452・5037			
	女性: 梅林 090・4822・7882			

♪ シリーズ 私と合唱 ♪

私と合唱

石井 薫

皆さん、小学生のとき「みんなのうた」という小さな本がありませんでしたか？

私が通っていた小学校では、毎朝、「今日は〇〇ページを歌います。」と校庭に集められ、全校生徒で歌って活用していました。自然と2部に分けられたりしていて、とても楽しかったのを覚えています。

小4で、平塚に越してきてからは、学校で歌う機会は減りましたが、家では、電気のひもをマイクがわりに、流行歌を歌っていました。

私が、合唱曲にであったのは、息子の中学の合唱コンクールの特別演奏に参加したときに歌った「大地讃頌」でした。

本格的な合唱は、初めてで、難しかったのですが、練習を重ね、皆で歌いきった事は感動でした。そして、これをきっかけに結成された女声合唱団でも、色々な合唱曲に出会い、合唱の魅力にハマっていきました。

今は、音を取るのも大変ですが、歌い上げると、自分なりの達成感があり、とても気持ちよく嬉しくなります。今後は、そのために難曲と向き合っていきたいと思っています。

アメリカでの男声合唱とサククス

兵頭 英明

兵頭の長い音楽人生の中、一つ変わった体験を紹介します。

それは1990年7月に米国に研修（ISP）に行った時のことです。この研修はアメリカの保険制度を勉強するために、損保若手職員総勢約28名（全てが男性）が、1ヶ月に亘りサンフランシスコ郊外にある Saint Marys College of California の寮に宿泊し、米国人の講師を招き、また保険会社等を訪問しました。SF後は、シカゴ、NY等へ行き、米国の歴史・音楽・美術館・野球・カジノを堪能しました。因みに私の役目は研修担当の副団長でした。

訪問の際、全員で「Sukiyaki／上を向いて歩こう」（米国人はこの曲が好きでした。）を歌いました。また、1ヶ月間のSF研修後の卒業パーティーでは、もう一曲「We are the World」を熱唱しました。私の担当パートは「Ray Charles」でした。（サングラスをして振り返ると、ウケました）

さらに、余興として、私のテナーサククス🎷と友達のギター🎸で「思い出のサンフランシスコ」（I left my heart in San Francisco!）を演奏しました。そうしたら、なんと・なんと、ゲストたちが踊り始めたのでした、文化の違いをしみじみと感じ、もう一曲🎷 感激！ 感謝！

アメリカでの男声合唱とサククスの思い出でした。

『Ⅱ ねこじゃらし』

思い出の向こう側から
一人の少年が走ってくる
あれは白い運動ぐつを
初めて買ってもらった日の
私かもしれない
白い布に草の汁を飛び散らせながら
あんなにも
あんなにも嬉しそうに
今に向かって 走ってくる



『Ⅴ てっせん・どくだみ』

花は自分の美しさを
知らないから
美しいのだろうか
知っているから
美しく咲けるのだろうか



おまえを大切に
摘んでゆく人がいた
臭いといわれ
きらわれ者のおまえだったけれど
道の隅で
歩く人の足許を見上げ
ひっそりと生きていた
いつかおまえを必要とする人が
現れるのを待っていたかのように
おまえの花
白い十字架に似ていた